



今日のキーワード 盛り上がるラグビーW杯の『経済効果』に期待

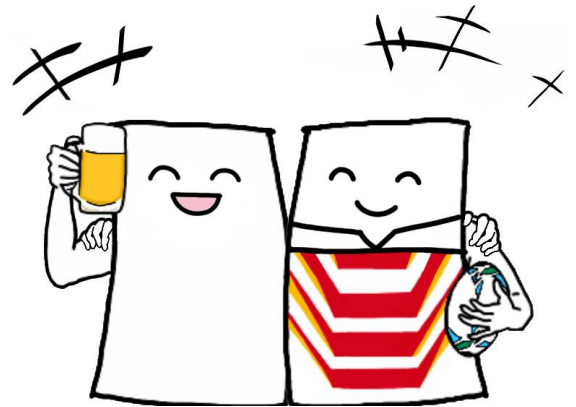
9月20日からラグビーワールドカップ（W杯）日本大会が開催され、11月2日の決勝まで全国12都市で試合が行われます。国内だけでなく海外からも多くのラグビーファンが訪れ各地で観戦しています。大会組織委員会はその『経済効果』を4,372億円と試算していますが、日本代表が強豪相手に勝ち進み「桜ジャージ」が品不足になるなど、予想よりも盛り上がりを見せており、想定以上の『経済効果』を及ぼす可能性があります。

ポイント1 『経済効果』は4,372億円

- ラグビーW杯日本大会が9月20日から開催されています。11月2日の決勝まで全国12都市で計48試合が行われます。大会組織委員会は、大会前経済効果分析レポートでその『経済効果』を、来訪者による消費などの直接効果から、雇用者所得増加による消費支出増加などの間接効果まで含め4,372億円、海外からの観戦客を40万人と試算しています。海外からの観戦客は、ついでに周辺を観光することも考えられるため、大きな『経済効果』を及ぼす可能性があります。
- 開幕から一週間経った時点で、同委員会は観客動員数が42万人を超えたことを公表し、一試合の平均観客数は3.5万人、チケット販売可能数の97%が販売済みと報じられています。

ポイント2 インバウンド消費は長期滞在、高消費単価の傾向

- ラグビーW杯のインバウンド消費（訪日外国人の消費）では長期滞在と高消費単価が期待されています。
- 開催期間が44日間と長期滞在となることに加え、応援するチームの次の試合までの間に観光することが期待されます。
- 参加国の多くを占めるヨーロッパ、オセアニアからラグビーファンが大勢訪れると見られますが、これらの国・地域からの訪日外国人の旅行支出金額は、全体平均より高い傾向にあります。観光庁による2018年の調査では、英国：22.1万円、オーストラリア：24.2万円、フランス：21.6万円と、全体平均の15.3万円を上回っています。



今後の展開 ラグビーW杯の『経済効果』による増税後の消費下支えを期待

- 日本代表はロシアや強豪アイルランドに勝利し、悲願の決勝トーナメント進出に向かってラグビーファンの応援も盛り上がっています。レプリカの「桜ジャージ」が品不足になるなど、大会は予想された以上の盛り上がりを見せています。10月1日から消費税が引き上げられ、8月の景気ウォッチャー調査では先行きが大きく悪化していますが、日本代表の活躍でラグビーW杯が一層盛り上がり、消費を力強く支えることが期待されます。

ここも
チェック! 2019年10月 3日 宅森昭吉のエコノミックレポート 10月のトピック
2019年 9月11日 『街角景気』は先行きが大きく悪化

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。